

## 大河ドラマになった古代

2024年大河ドラマ「光る君へ」が今日（12月15日）、最終回を迎えます。

これまでNHKでは、歴史的な時代や著名人等をテーマとした大河ドラマを制作して放送しています。この文章を執筆している段階で63作品が放送され、さらに来年、再来年の作品も公表されています。これらを対象とした時代で見ると、圧倒的に多いのが戦国時代（26作品）、次いで幕末（15作品）となります。最も古い時代は、平将門を主人公とした「風と雲と虹と」（1976年放送）の平安時代（9世紀末～10世紀初）で、これに次ぐのが紫式部を主人公とした「光る君へ」となります（10世紀末～11世紀初）。

奈良時代以前については全く対象となっていませんし、平安時代も源平争乱期を除けば、この2作品と「炎立つ」（1993年～94年放送）（11世紀後半～12世紀末）のみと非常に少なくなっています。やはり大河ドラマといえば、誰もが知っている歴史上の偉人や著名な事件がないと視聴者の“食いつき”が悪いということなのではないでしょうか。奈良平安時代でも日本の歴史を大きく変えるような事柄はありますし、重要人物もいるのですが、一般の人びとにはあまりにも知られていなさすぎるのでしょうか。有名な戦国武将、幕末の新選組や戊辰戦争のエピソードなど、既に人々の記憶に刷り込まれている事象が多々ある戦国時代や幕末とは大違いです。また、奈良平安時代のようにあまり取り扱われることのないような時代を舞台とすると、セットの大道具や衣裳、小道具などを旧来の作品と使いまわしができない、時代考証が面倒などという大人の事情もあるのでしょうか。

「光る君へ」は平安時代中期を描いた、大河ドラマとしては珍しいものでした。今日、どのようなラストを迎えるのか楽しみです。

(浅井勝利)

## 長者ヶ平遺跡の土器口縁破片

中央日本4県（静岡県、山梨県、長野県、新潟県）知事サミットを受けて、令和5年度から新潟県では山の洲文化財交流事業に参画している。令和6年度には「珠玉の国 新潟ーヒスイ,青玉,赤玉,ー」のタイトルでシンポジウムと展示を行った。新潟県立歴史博物館の秋季テーマ展示がそれである。テーマ展示は運営経費不足のなか、企画展示室を稼働させるという理不尽な要請で実施されている。そのため、経費を最小限にとどめ、テーマにあわせて無理繰り展示資料の調達をする場面も少なくない。異なる所蔵機関から展示資料を借り、当館で展示する。終了後には各所蔵機関へ展示資料を返還する。展示資料の所蔵機関の好意に甘えつつ、博物館がすべてを賄うしかない。そうしたテーマ展示に伴う厳しい工程のなかでも思わぬ僥倖に浴することはある。それまで確認されていなかった資料の発見である。テーマ展示のため資料を借り受けた佐渡国小木民俗博物館では、常設展示中の資料をケースから抜いていたため、ケース内に隙間が生じないように、レイアウトを調整していた。借り受けた資料が戻れば、再調整を要する。それを補助する際、手に取った長者ヶ平遺跡出土の土器口縁破片の突起には、三角形土版を取り込んだと考えられる残欠があった。三角形土版は、縄文時代中期火焰型土器のころの土偶の一種と考えられる土製品である。こうした三角形土版の突起に造形される土器は、十日町市<sup>ささやま</sup>笹山遺跡や長岡市<sup>さんか</sup>山下遺跡など信濃川流域の遺跡で確認されるにとどまり、佐渡島の遺跡でははじめての発見である。また、笹山遺跡や山下遺跡には三角形土版それ自体もある。ところが長者ヶ平遺跡には土偶はあるものの、三角形土版は確認されていない。火焰型土器の本場は信濃川流域と想定され、長者ヶ平遺跡の火焰型土器や王冠型土器あるいは土偶は、そうした地域間の交流を示す物的証拠と評価されてきた。そこに新たに三角形土版が加わった。

（宮尾亨）

# サイノカミと新潟県立歴史博物館

サイノカミは、小正月の火祭行事です。地域によっては、オマツヤキ、ドンドヤキ、ドウラクジンヤキなどとも呼ばれています。ここ長岡市関原町で行われるサイノカミでは、カヤやワラなどを組み立てて燃やして無病息災を祈ったり、するめを焼いて食べ、歯が丈夫になるように祈ったりする姿が毎年の風物詩となっています。

新潟県立歴史博物館とサイノカミの出会いは、開館までさかのぼります。平成3年から始まった関原町1丁目のサイノカミですが、平成11年にサイノカミの会場探しの難航、機材の不足などからサイノカミの存続の岐路に立つ時期がありました。そんな折、当館の開館を機に共催する気運が高まり、平成12年度より新潟県立歴史博物館と関原町1丁目  
が連携して行われるサイノカミが開始されました。

サイノカミの安定的な運営のため有志の会も発足し、綿密な連携のもと、準備作業等を進めてきました。これまで新潟県立歴史博物館とサイノカミ有志の会で連携しておこなってきた準備作業ですが、昨年度から新しい動きがありました。それは、前日準備に地元の小中学校の子どもたちが参加してきてくれたことです。有志の会の発案で、地元の学校に呼びかけをしたことで実現しました。子どもたちは、小竹準備やとば編みの手伝い、お焚き上げをする品の運搬、会場の雪踏みを行い、最後にお菓子&お餅まきをして、お土産を手に喜んで帰っていきました。今年度も、こうした手伝いを通して子どもたちに地域行事を少しでも身近に感じてもらいたいと思い、準備を進めています。参加してくれた子どもたちが大人になり、一緒にサイノカミの準備ができる日を願っています。

今年度は、令和7(2025)年1月12日(日曜日)に開催されます。どなたでも参加できますので、皆様のご来場をお待ちしております。

(交流普及)



←2024年1月のサイノカミ

↓準備を手伝う子どもたち



### ～編集後記～

新潟県立歴史博物館では、新潟県地域史研究ネットワーク事業の一環として、2024年12月から「れきはく通信」を配信いたします。館内での出来事や研究のこぼれ話、資料紹介など、“れきはく”から様々な話題をお届けします。お楽しみください。

配信方法は、毎月15日配信の「新潟県地域史研究ネットワークニュース」と同報のほか、月末更新となる新潟県立歴史博物館のホームページでもご覧いただけます。

不定期刊行となりますが、どうぞお付き合いください。

ご意見、ご要望は新潟県地域史ネットワークニュース事務局までご連絡ください。

事務局メール [net@nbz.or.jp](mailto:net@nbz.or.jp)